

総合健診システム

今日の医療は、単に病院における医療ばかりでなく、国民の健康をその一生にわたって守りぬくため、総合保健広域医療という分野に広がっており、この医療体制を、コンピュータを軸に通信、医療、計測などの技術を結集して大きな社会システム化することが進められている。

このなかで総合保健は、国民の健康を一生にわたって管理することを目標に、総合的健康診断、健康管理、あるいは病後の生活指導、社会復帰指導などを行ない、システムとして総合健診システム、社会復帰システム、環境計測システムなどが考えられる。

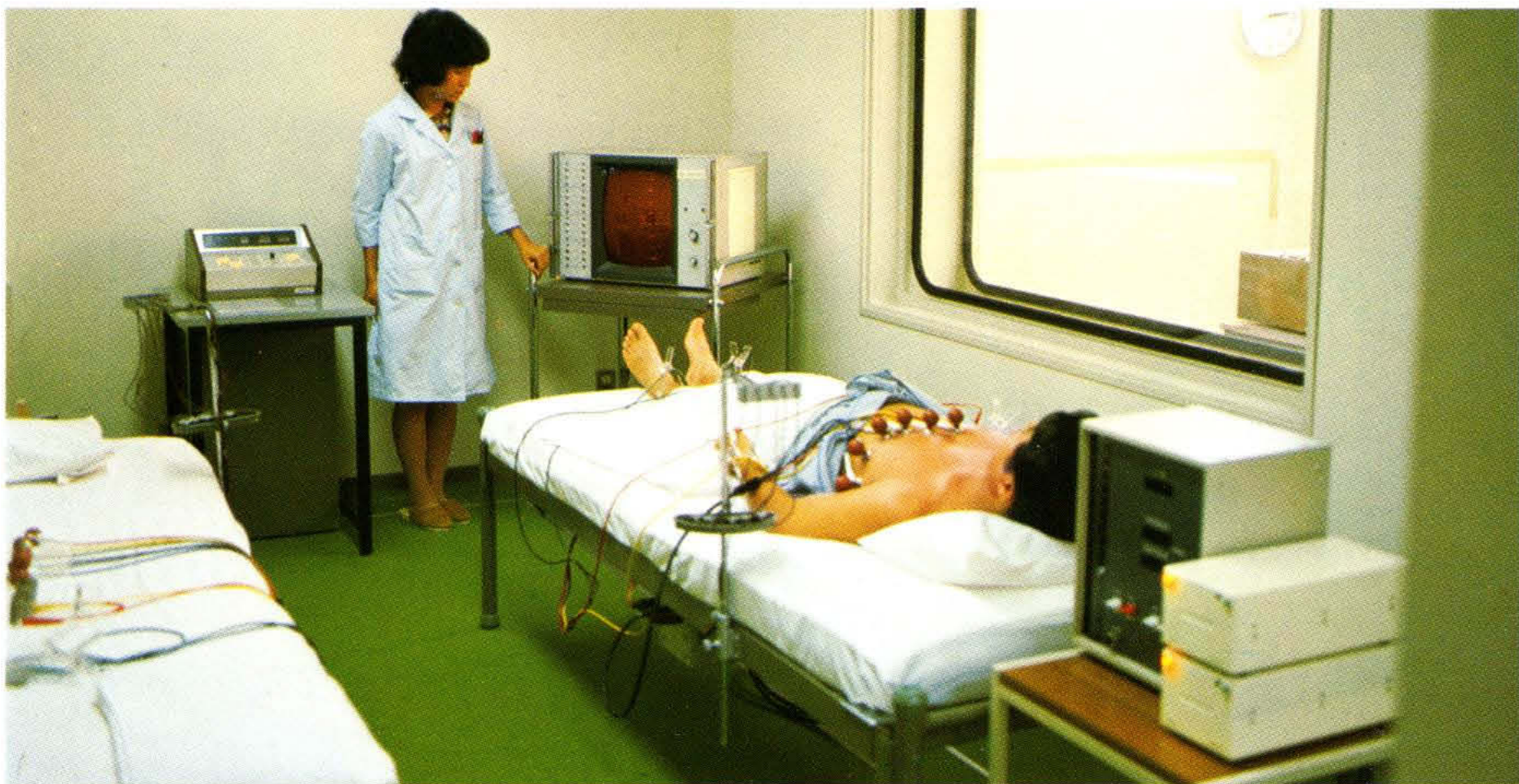
特に総合健診システムは、多くの受診者の健康を正確にスピーディに診断する人間ドックのシステム化として、各方面から早期開発が要望されていたもので、去る49年8月に茨城県日立市の日立総合病院に、日立総合健診システムが設置され、現在好調に運営されている。

このシステムは、株式会社日立メデイコをはじめ日立医療システムグループが総力を結集して開発したもので、健診、問診、運用の三つのサブシステムから構成され、受診者の受付、登録から検査、データ作成及び判定記録保存まで一貫した処理を行なう。

まず健診システムは、各種検査機器データ収集システム、中央処理装置で構成され、受診者の各種検査を実施する。身体計測、呼吸器系検査、循環器系検査、消化器系検査、血液・尿の化学的検査、血圧測定、胸部・胃部のX線検査及び心電・心音図など約60項目の検査を行なう。自動化した検査機器が手順よく作動して、データはオンラインでコンピュータに入って処理される。

次に問診システムは、受診者自身から必要項目についてデータを採るため質問項目を提示する表示装置や工業用テレビカメラ、問診の結果を中央処理装置へ送るデータ処理装置から成る。

運用システムは、先の健診、問診を生かすためのもので、中央処理装置によって受診予約、結果の収集、統計作



成及び受診後のフォローアップ業務などを行なう。

検査に要する時間はわずか3時間で、検査が終わると直ちに総合判定の資料が作成され、それをもとに医師が診断を下し、その結果によっては病院で適切な治療が行なわれる。受診者のデー

タは保存蓄積されるので、永続的な健康管理が可能である。

日立総合病院では、システム化の第一期に、臨床検査システム及び監視システムを導入、第二期に総合健診システムを設置し、医療の総合システム化に大きく前進しつつある。

